

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局：大代地区公民館 ☎364-8442

大代地区総合防災訓練を終えて

大代五区区長会

会長 小野 菊郎

十一月十二日(日)、五百十二名(最終結果)参加者の下、各方面のご協力を賜り訓練を終了いたしました。

今回の訓練目的は、必ず来る宮城県沖地震を想定して、区毎の災害対策本部設置と、その円滑な運用訓練でした。

当日までの四ヶ月間、各区では防災会議を開き、対策本部設置と役割分担、協力体制の確認等訓練内容を検討して当日を迎えました。

段取りは、結果の七十%を占めると言いますが、その点住民の安全、安心をどの様に確保するか、対策本部設置を中心として事前の検討会議が答えを出したと確信いたします。

しかし、大きな災害は一区だけの問題ではありません。大代地区全体で起きることから、地区として一体化した対策を講じることが求められます。

地区住民の知恵と工夫で、まず自助、次に共助と災害を乗り越える力を備え、災害に打ち勝つ地域を構築しなければなりません。今回の総合防災訓練が、その契機となる事を願ってやみません。大代住民の皆様のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

尚、この度は、多賀城市、多賀城消防署、日本赤十字社、地区内各種団体の皆様には、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

あいさつは心のふれあい 出会った人と あいさつしましょう

グラウンドゴルフ大会を終えて

体育部長 熱海 五郎

去る十一月十九日の日曜日、コミュニティ主催のグラウンドゴルフ大会が盛大に行われました。

当日、会場の緑地公園は、早朝から絶好の小春日和に恵まれ、総勢七十四名の参加のもと、和気あいあい、日頃の練習の成果を発揮して、終始笑顔の好ゲームを展開し、無事終了しました。また、この大会の設営に協力された皆さんありがとうございました。

なお、次の方々が入賞しました。
男子の部
優勝 三浦 保雄さん
二位 福島 嘉三さん
三位 伊藤 要さん
女子の部
優勝 渡邊 みえ子さん
二位 鈴木 アサ子さん
三位 柴 のり子さん
みなさんおめでとうございました。

公民館からのお知らせ

年末年始の休館日

平成十八年十二月二十八日(木)

～

平成十九年 一月 四日(木)

自動交付機も同様となります。

小倉百人一首入門(その一)

大代西 藤田 遊子

『ちぎりきな かたみに袖をしぼりつつ 末の松山 波こさじとは』

清原元輔

「概訳」二人で固く約束しましたね。

お互いに涙を流しながら末の松山を波がこさないように、決して心変わりはしますまえと。

「主旨」固い愛の約束を守らない相手の女性の心変わりをなじる気持ちの歌。

「場所」八幡二丁目の宝国寺の付近にある歌枕(松木立)

「要点」作者はある男に頼まれ、代筆した歌であり「ちぎりきな」が歌の骨幹をなし、あとは説明書きである。

「作者」清少納言の父。三十六歌仙の一人。敏達天皇の直系であり、河内権の少権。周防の守、肥後の守を歴任した。

「参考」東歌の本歌があるが作者がこの地を訪れた記録はない。元禄二年五月八日、松尾芭蕉がこの地を訪れた。

新年を祝う会開催のお知らせ

大代地区コミュニティ推進協議会

会長 佐藤 甚六

平成十九年「新年を祝う会」を左記の通り開催致します皆様方ご参加下さいます様ご案内申し上げます。

(記)

■日時/平成十九年一月七日(日)

午前十時～午後一時

■場所/大代地区公民館

■会費/千五百円

■参加申込

詳細は回覧文書をご覧下さい。(十二月の配布物に入っております)

■申込締切

平成十八年十二月二十二日(金)

■主宴アトラクション

レーザーカラオケを用意いたします

出演希望者でカラオケ専用テープが必要な方はご持参下さい。

■会場設営

一月七日八時三十分から会場の準備を行いますので関係者の方はご協力下さい。



ご祝儀 お見舞いは 三千円を限度にし お返し物はしなないようにお互い気を配りましょう

私の戦争体験

大代南 星 繁子

今年の八月十五日もやっぱり暑い夏の一日でした。年を重ね、日々記憶が薄れていく昨今なのに何故か毎年の終戦の日だけは忘れられない。六十一年前のこの頃を振り返ると、私は田舎の女学校の三年生で寮生活をしておりました。食糧基地ともいわれる栗原のど真ん中なのに食料の調達が出来なくなり寮は閉寮となり、私と姉は母の知人の家に下宿する事になった。食糧事情はとも深刻で非農家の下宿先はより深刻だった。配給になる米だけではどこにも足りず、朝夕は芋がゆで大根の干し葉等が入りわずかに米が底に沈んでいる様だった。それでも昼は弁当がもらえ、三食を食べられる幸せを感じていた。クラスでも弁当を持ってこれない人もいた。先生は自分の弁当を分け与え私達にも分けて食べる事を教えてくれ苦しいながらも何かほのぼのと感じられた時代でもあった。

学校に行っても授業とてなく、出征兵士の農家の手伝いや、兵隊の指導の下で山を開墾し作物を作り収穫した豆や麦は軍隊に納められ私たちの口には入らなかった。とても不満で納得がいかなかったが、私達一握りの声ではどうにもならなかった。そのころ私は何時も体調が悪くフラフラしていたので病気だと思いい学校を休みたいと姉に話すと、姉は「あんただけではない、それは病気ではなく空腹からくるものでご飯を三食、食べると直るんだよ。早く戦争が終わり一杯ご飯を食べたいね。勝つまでは頑張ろうね」と姉は励ましてくれ『殖生の宿』を歌ってなぐさめてくれた。姉の愛に包まれ、苦しい時代を生きられたのかもしれない。そんな日々が続いた八月十五日、学校でも昭和天皇の玉音放送があり、先生も生徒も茫然として下校となった。下宿に帰ると下宿の主人は縁側に出て号泣していた。主人は退役職業軍人で、常々「日本に敗戦の歴史はない、必ず神風が吹いて日本は勝つのだ。それまでは頑張れよ」と雨の日も風の日も近くにある神社に必勝を祈願し勝利を信じていた。私達の学校だけではなく日本全体が「欲しがりません勝つまでは」「頑張れよ」など役場が中心になり町のあちこちにポスターが貼り出され戦争ムードを掻き立てていた。老いも若きも衣食住すべてを我慢し日本の勝利を信じての生活だったが、今の様に簡単に人の命を奪う殺人や丹精込めて作ったさくらんぼやりんごを大量に盗む悪質な話は聞かなかった。今は社会に物が溢れ、ありがたさや他人を思いやる心が希薄になり、なんか淋しく、自分の弁当を分け生徒に与えてくれた先生や歌を歌って空腹をなぐさめてくれ

た姉の優しさがとてもなつかしく、今でも人生の応援歌になり、これからも続くと思っています。

シベリヤの抑留生活を紹介してくれている後藤さんのように北方や南方の前戦で命をかけて戦った方々や命を失わずも落とされた方々へ心から敬意を表してやみません。そして二度と戦争を繰り返さぬ様にと風化していく戦争体験の一部を記させていただきました。※当時、女子学生に国が歌わせた歌です。

朝礼に歌い鋭気を養いました

『愛国の花』

眞白き富士の気高さを
心に強い盾として、
御国につくす女子等は
輝く御世の山桜
地に咲きにおう国の花

ふれあい俳句

大代西 藤田 遊子

雪しまき三角屋根の窓塞ぐ
終電車マスクの人の膝小僧
リハビリの了へたる朝実千両

大代西 松浦 富男

一枚の余生の意志や紅葉山
鉄の爪鈎瓶落しを引き戻す
(東海道静岡鞠子宿にて)

鞠子宿古りし丁字屋麦とろろ

広重の絵皿が囲むとろろ汁

丁字屋にとろろをすする芭蕉句碑

笠神西 本郷 勝子

山刀伐峠や紅落黄落踏みしめて
新蕎麦や山河越して婆三人
奥山の湯船につかりて初しぐれ
芒原亜麻色濃くして夕昏る
猿群団柿をねこそぎ友の里

公民館からのお願い

大代地区公民館玄関脇にある『松の剪定』作業の奉仕をしていただける方、恐縮ですがご一報下さい。

連絡先

☎三六四一八四四二

